



北海道における縄文後晩期の低湿地集落 - 農耕の視点で考える -

倉橋 直孝（財団法人北海道埋蔵文化財センター）

＜はじめに＞ 北海道における縄文時代後晩期の低湿地性遺跡調査は、千歳市美々4遺跡呑口部などで行われていたが、本格的な調査は小樽市忍路土場遺跡にはじまる。その後、千歳市キウス4遺跡、キウス5遺跡、苫小牧市柏原5遺跡、余市町安芸遺跡などで調査が行われている。

栽培植物の検出については、花粉分析、プラントオパール分析、水洗選別法、フローテーション法などが用いられている。北海道ではフローテーション法による植物遺体の検出が他の地域に比べ1970年代から継続的に行われているので、この成果を中心に報告する。この方法の利点は、サンプリングする地点が低湿地部分に限定されず、台地上の遺構（竪穴住居跡、土壌、焼土、盛土遺構など）でも行えることである。

＜北海道における縄文時代後晩期の遺跡から出土した植物遺体＞

縄文時代後晩期の遺跡から出土した植物遺体の種類：表1のようにフローテーション法により木本、草本類の種実などを検出した。大部分が野生種であるが、一部栽培植物も見つかっている。キウス4遺跡、キウス5遺跡、柏原5遺跡、札幌市N30遺跡からはアサガ、忍路土場遺跡からはゴボウ、シソ、ホウズキ、恵庭市ユカンボシE7遺跡からはアワ、恵庭市西島松5遺跡からはオオムギ、小樽市塩谷3遺跡からはオオムギ、アワ？が検出されている。柏原5遺跡から出土したアサは量が比較的多いが、その他のものは出土数が少なく、実際に現地で栽培されたものか、持ち込まれたものか、もしくは偶発的に混入したものか判断が難しい。その他、花粉分析では、忍路土場遺跡、奥尻町東風泊遺跡、千歳市ママチ遺跡からソバ属の花粉が見つかっている。

＜北海道における縄文農耕の可能性＞

縄文時代に農耕があったかどうかは、農耕の定義も含めてさまざまな議論がある。

栽培植物：ソバ、アサ、ソバ、アワ？、ゴボウ、シソ、ホウズキ、オオムギが検出されている。

畠跡：千歳市美々貝塚北遺跡で畠跡といわれる遺構が報告されているが、解釈が難しいところである。その他に縄文時代の畠跡はみつからない。

農具：はっきり農具といえる遺物は出土していない。しかし、キウス5遺跡などから出土している尖頭加工棒は、播種などに利用することが可能である。

ヒエ属に見られる形態の変化：縄文時代早期貝殻文期の函館市中野B遺跡からヒエ属の種子が出土している。エノコログサなど同様に生えていたと思われる植物種子が検出されないこと、出土するヒエ属の種子には脱穀されているものが多いことから、選択して利用していたと考えられる。その中に野生種のイヌビエの形態でありながら、栽培型のヒエに近い形態を持つものが見られる。それらの形態変化は、その他縄文時代の遺跡から出土するヒエ属種子にも見られる。これは人が関与することによる野生植物から栽培植物への馴化（domestication）の過程と同じものである可能性がある。

＜まとめ＞ 本州の後晩期のようにイネの検出は見られず、雑穀ではアワ、オオムギが少量出土しているにすぎない。ただ、ヒエ属は早期中葉の中野B遺跡から出土し、縄文時代の各時期に見られ、それが続縄文時代に続いているようである。形態変化が縄文時代を通してみられることを積極的に評価すれば馴化の過程をあらわしているといえる。ヒエは日本で栽培種になったと考える農学者もあり、このような状況が本州の縄文時代の遺跡でどの程度みられるのか今後の課題であると考えられる。

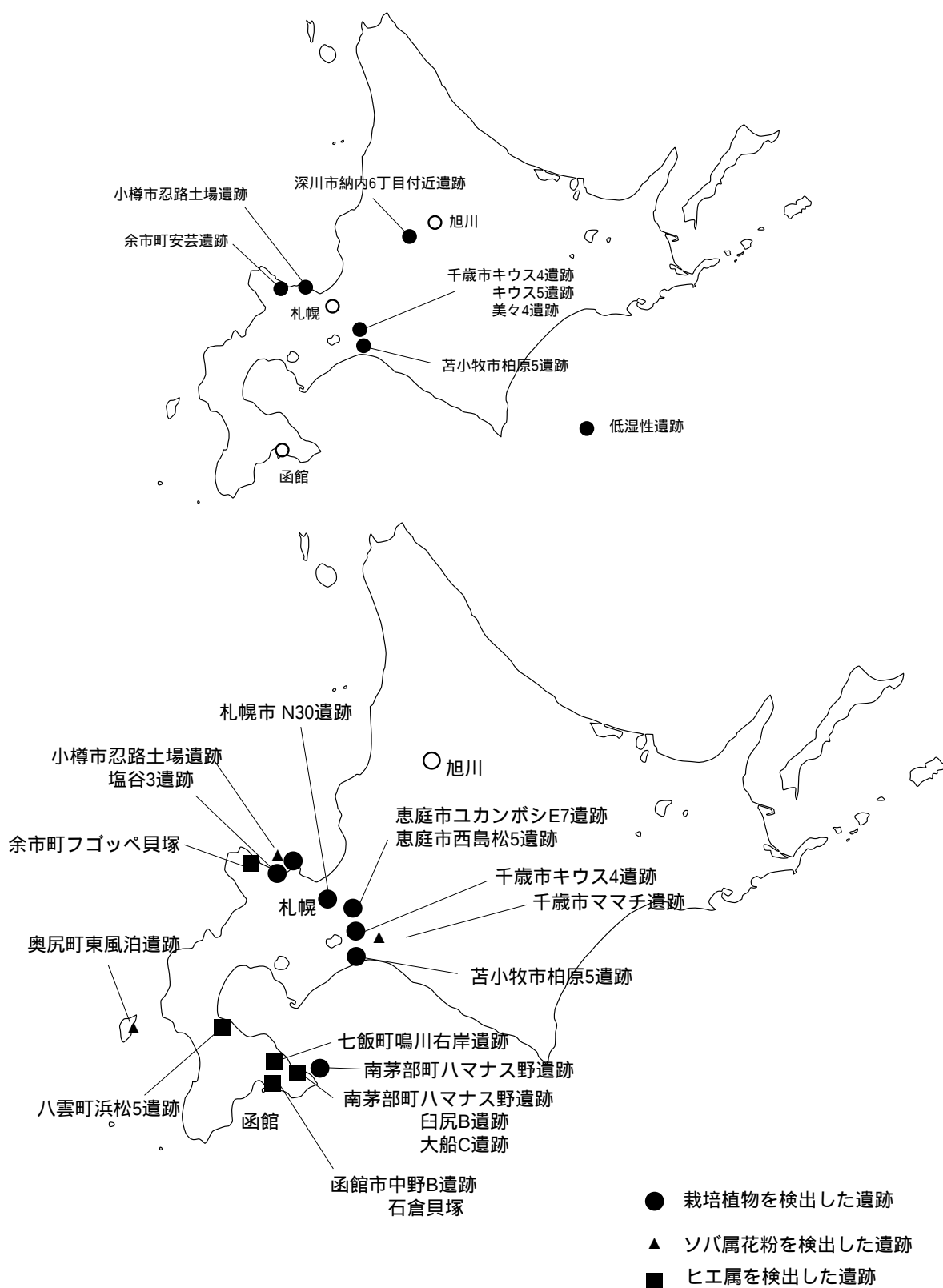
低湿性遺跡から出土した植物遺体

遺跡名	時期	サンプル地点	植物名	報告書名	発行年	発行元	同定者
1 小樽市忍路土場遺跡	縄文後期	低湿地遺物包含層	ハイヌガヤ種子・アカドマツ球果・オニグルミ核・アサタ堅果・ハシバニ堅果・ハンノキ果穂・鱗片・ミズナラ堅果・コナラ・クルミ堅果・ホウノキ種子・コブシ種子・ヤマザクラ種子・キハダ種子・ミシバウツギ種子・トチノキ種子・ヤマブドウ種子・サルナシ種子・ミズキ種子・ハクウンボク種子・ニワトコ種子・オオカメノキ種子・イカリ（エノコログサまたはキンエノコロ）ササ科・カヤツリグサ科・ホタルイ草・カヤツリグサ科・カヤツリグサ属・タデ科種子・アカザ属・アブラナ科・シソ・ホウズキ・ゴボウ	『小樽市 忍路土場遺跡・忍路5遺跡第4冊』, 193-212	1989	北海道埋蔵文化財センター	矢野牧夫
2 千歳市美々4遺跡	縄文後期	低湿地遺物包含層	オニグルミ核・核片・ハシバニ堅果・ミズナラ堅果・殻斗・クルミ果・トチノキ種子皮・ビシ刺針・ヤマブドウ種子	『美沢川流域の遺跡群3』, 53-56	1979	北海道教育委員会	矢野牧夫・尾上博章
3 苫小牧市柏原5遺跡	縄文後～晩期	遺物包含層	イネ科（ヒエ属）トシノ属・アサ・タデ科・アカザ属・ケシ科・エノコログサ科・セリ科・カヤツリグサ科（スズ属）・ヒルムシロ属・ヒルムシロ・クサノオ属・クサノオ・ハコ属・ハマナス・クワ属・クワ・カラマツノ属・カラマツノ・タラノキ属・タラノキ・マタタビ属・サルナシ・ニワトコ属・エノコログサ科・キハダ属・ブドウ属・ヤマブドウ・ミズキ属・モクレン科（ホウノキ）ヒシ属・クルミ属・ブナ科（ミズナラ）	柏原5遺跡	1997	苫小牧市教育委員会 苫小牧市埋蔵文化財調査センター	榎坂恭代
4 千歳市キウス5遺跡A・2地区	縄文中～後・晩期	土壌・焼土・包含層・流路	<台地部分>アサ・タデ属・ナス科・ネギ属・マタタビ属・タラノキ属・キハダ属・ミズキ属・サクラ属・ブドウ属・クルミ・コナラ属・クルミ属 <段丘・低湿地・旧河道部分>アサ・タデ属・ナス科・ミヤマニガウリ属・ミシバウツギ属・マタタビ属・タラノキ属・キハダ属・クマシデ属・サクラ属・ブドウ属・モクレン属・エゴノキ属・クルミ属・クルミ属・ハンノキ属	『千歳市 キウス5遺跡（5）』第2分冊, 369-382	1998	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
5 千歳市キウス4遺跡A2地区	縄文前期	堅穴住居・焼土・土壌・包含層	カヤツリグサ科・ホタルイ草・ユリ科・ミシバウツギ属・ミシバウツギ・キハダ属・ブドウ属・ヤマブドウ・ホウノキ属・コナラ属・クルミ属（オニグルミ）	『千歳市 キウス4遺跡（4）』, 211-217	1999	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
6 深川市納内6丁目付近遺跡	縄文早期	旧河道・堅穴住居	オニグルミ核・核片・ヤマブドウ核・ホウノキ核・コブシ核・イチゴ属核・ナナカマド属核・サクラ属核・キハダ核・ブドウ属核・サルナシ種子・タラノキ属核・ミズキ核・エノコログサ核・イカリ種子・ヒルムシロ属種子・カヤツリグサ科果実・A・B・C・D・タデ属果実・アカザ科果実・キンボウグ科果実・キジムシロ属またはヘビイチゴ属核・ナス科種子・シソ科種子・ナデシコ科種子・キク科果実・アブラナ科種子・マメ科種子	『深川市 納内6丁目付近遺跡2』, 255-276	1990	北海道埋蔵文化財センター	山田信郎

栽培植物またはヒエ属が出土した遺跡

遺跡名	時期	サンプル地点	植物名	報告書名	発行年	発行元	同定者
1 小樽市塩谷3遺跡	縄文晩期	土坑・屋外炉・包含層・流路	ヒエ属・メシバ属・キンエノコロ・アワ・オオムギ・タデ科・キク科・マメ科・マタタビ属・ニワトコ属・タラノキ属・キハダ属・ウルシ属・ミズキ属・ブドウ属・クルミ属	『塩谷3遺跡』, 134-140	1991	小樽市教育委員会	吉崎昌一
2 札幌市N30遺跡	縄文後～晩期	住居址・焼土・炭化物集中・石片集中	アサ・タデ属・ナス科（ホウズキ属）マメ科・ハコ属（ハマナス）キハダ属・マタタビ属（サルナシ）ニワトコ属・タラノキ属・タラノキ・ミズキ属（ミズキ）モクレン属（ホウノキ）ブドウ属・ヤマブドウ・ウルシ属・ヤマウルシ・コナラ属・クルミ属	『N30遺跡』札幌市文化財調査報告書58	1998	札幌市教育委員会	吉崎昌一・榎坂恭代
3 恵庭市西島松5遺跡	縄文後期	土壌・焼土	オオムギ・マタタビ属・キハダ属・ブドウ科・クルミ属・コナラ属	『恵庭市西島松5遺跡（2）』, 355-358	2003	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
4 千歳市キウス4遺跡A・H・I・K地区	縄文	堅穴住居・土坑墓・盛土遺構・屋外炉・水場遺構・フラスコ状ピット・包含層	ヒエ属・アサ・タデ属・ナス科・キク科・ケシ科・マメ科・ユリ科・マタタビ属・キハダ属・ブドウ科・コナラ属・クルミ属	『千歳市 キウス4遺跡（3）』, 514-521	1999	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
5 千歳市キウス4遺跡R地区	縄文早期・中期・後期	堅穴住居・焼土・土壌	ヒエ属・イネ科・アサ・タデ科・キク科・ユリ科・ブドウ科・ブナ科・クルミ属・キハダ属・キハダ属・ウルシ属	『千歳市 キウス4遺跡（6）』, 342-348	2000	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
6 八雲町浜松5遺跡	縄文後期	堅穴住居・土坑・包含層	クリ子葉果実・ミズナラ子葉・コナラ子葉・カシワ子葉・オニグルミ核片・エノコログサ種子・タデ属子果実・ヒエ属穎果	『浜松5遺跡』, 185-190	1995	八雲町教育委員会	山田信郎
7 千歳市キウス4遺跡L地区	縄文後期	盛土遺構	ヒエ属・アサ・キク科・タデ属・ナス科・アカザ属・ユリ科・マタタビ属・キハダ属・ブドウ属・クルミ属・コナラ属	『千歳市 キウス4遺跡（2）』, 357-367	1998	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
8 恵庭市ユカンボシE7遺跡	縄文後期	堅穴住居・焼土	アワ・オニグルミ・コナラ属・キハダ・ブドウ属・エノコログサ・アカザ属・タデ属・キク科・ユリ科・カヤツリグサ科	『恵庭市 ユカンボシE7遺跡』, 361-370	1998	北海道埋蔵文化財センター	山田信郎
9 七飯町鳴川右岸遺跡	縄文前～中期・後期・晩期	屋外炉	ヒエ属・マタタビ属・ニワトコ属・キハダ属・ウルシ属・ミズキ属・タデ属・アサダ属・クルミ属	『七飯町 鳴川右岸遺跡』, 205-208	1994	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一
10 南茅部町大船C遺跡	縄文前～中期	堅穴住居	ヒエ属・タデ属・マメ科・マタタビ属・キハダ属・ミズキ属・ウルシ属・ブドウ属・クマシデ属・アサダ属・クルミ属・ニワトコ属・冬芽	『大船C遺跡』	1996	南茅部町教育委員会	吉崎昌一・榎坂恭代
11 南茅部町日尻B遺跡	縄文前～中期	堅穴住居	ヒエ属・タデ属・アカザ属・タラノキ属・キハダ属・イチゴ属・ニワトコ属・ブドウ属・マタタビ属・ウルシ属・アサダ属・キク科・ナス科	paleoethnobotany of the kameda peninsula jomon	1983	university of michigan, No. 73	G.Crawford
12 南茅部町ハマナス野遺跡	縄文前～中期	住居址床面	ヒエ属・タデ属・ブドウ属・ウルシ属	『後駒B遺跡 ハマナス野遺跡』	1991	南茅部町埋蔵文化財調査団	榎坂恭代
13 南茅部町ハマナス野遺跡	縄文前～中期	堅穴住居	ソバ・ヒエ属・タデ属・アカザ属・タラノキ属・キハダ属・イチゴ属・ニワトコ属・ブドウ属・マタタビ属・マメ科・アサダ属・ウルシ属・カヤツリグサ科	paleoethnobotany of the kameda peninsula jomon	1983	university of michigan, No. 73	G.Crawford
14 余市町フゴッベ貝塚	縄文前～中期	堅穴住居・屋外炉	ヒエ属・アカザ属・タデ科・マメ科・ヨモギ属・マタタビ属・タラノキ属・ニワトコ属・キハダ属・クルミ属	『余市町 フゴッベ貝塚 本文編』, 531-533, 535-546	1991	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一
15 函館市石倉貝塚	縄文前期	堅穴住居・土坑・焼土	ヒエ属・メシバ属・キハダ属・ミズキ属・ブドウ属・クルミ属	『函館市 石倉貝塚』, 219-224	1996	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
16 函館市中野B遺跡	縄文早期	堅穴住居・土坑・焼土	ヒエ属・タデ属・イチゴ属・マタタビ属・ニワトコ属・ガマシ属・ウルシ属・キハダ属・ミズキ属・ブドウ属・クルミ属	『函館市 中野B遺跡 第4分冊』, 304-313	1996	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代
17 函館市中野B遺跡	縄文早期	堅穴住居・土坑・焼土	ヒエ属・ナス科・タデ属・マタタビ属・ニワトコ属・キハダ属・ミズキ属・ブドウ属・クルミ属	『函館市 中野B遺跡（3）』, 615-621	1998	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・榎坂恭代

アンダーラインは栽培植物



参考文献

- 吉崎昌一1997「日本における栽培植物の出現」『季刊考古学』50
 高橋 理1998「北海道における縄文時代の植物栽培と農耕の地平」『考古学ジャーナル』439
 山田悟郎1998「日本列島北端で展開された雑穀農耕の実態」『北海道開拓記念館研究紀要』第26号